

拝啓 秋色日増しに深まります折柄、先生には益々御清栄のことと存じます。

さて、先生にはかねがね日本中国友好協会理事長・事務総長として日中友好の第一線に立って御活躍頂き同時にまた本刊行会の評議員としましても多大の御尽力を賜りましたことにつきまして心から感謝に堪えないところであります。

「日本と中国」紙上にて承りますと、先生には今般バトンを内山完造氏に御引継ぎになりました由、長い間誠に御苦勞さまでございました。今後とも日中友好のため益々御尽力御自愛のほどを御願ひ申し上げます。

本会その後の状況につきましては、さきに文部省より一三〇万円の補助金交付決定の際に御報告申上げまして以来御無沙汰申上げておりますが、実は昨年の会合以来、編纂工事は決定の線に沿って進行を続けており、格別新しい事情の発生もありませんため本年は全評議員各位の御参集を仰ぐという事を取止めました次第でありまして、此点何卒御諒承頂きたく存じます。

次に、先生には過去一年半にわたって評議員として長い間一方ならぬ御尽力を賜りましたが御就任の際に「日中友好協会の常任理事会の決定として刊行会の評議員は、理事長という身分で引受けることになったので、理事長交替の際は、自動的に交替するものと諒承されたい」という御申入れがありましたことを考慮致しますとき、本会の評議員としての厄介な仕事も、内山氏の方へ御引継ぎを御願ひしなければならぬのではないかと存ぜられるのですが如何でございますようか。

つきましては、本会としましては、辞典の編纂・刊行に関しまして、今後とも先生に何彼と御力添えを頂きたく存じ、勞々先生が愛大の同人でもあられます点から、まげて引続き、御参加・御協力を賜りたいと存じ、本会の協力委員を是非御引受け下さるよう御願ひ致します。

公私とも御多忙のことと存じはなはだ恐縮ですが、是非御承允を賜わりたく御考慮を御願ひ致します。

先は御礼並に御願ひまで

敬具

昭和三十一年十月四日

華日辞典刊行会

評議員会議長

小岩 井 淨

伊 藤 武 雄 先生